

議会活動の在り方検討特別委員会記録

招集（開催）年月日	令和3年6月17日（木）	
招集（開催）場 所	岩美町役場 全員協議会室	
出 席 委 員	田中克美委員長、寺垣智章副委員長、橋本恒委員、升井祐子委員、森田洋子委員、杉村宏委員、宮本純一委員、川口耕司委員、澤治樹委員、柳正敏委員（副議長）	
欠 席 委 員	川口耕司委員（遅参）	
議 長 の 出 席	あり	
職 務 出 席 者	濱野議会事務局長	
傍 聴 者	なし	
開 会	9時57分	
記 録 者	議会事務局 中島書記	
調 査 事 項	別紙日程表のとおり	
協 議 の 経 過		
日 程	発 言 者	内 容
開会	田中委員長	*起立、礼 始める。 川口委員はワクチン接種の為、遅参する旨の連絡があったので報告する。 足立議長あいさつを願う。
	足立議長	今委員会の懸案事項として6月定例会で試験的な議会運営を行った。この時期に皆にお願いするのはどうかと思うが、できるなら結論を出す前に執行部と正副委員長とで今定例会の状況について打合せしてほしい。そのうえで委員会としての結論を出してほしいと思う。実は町長から6月定例会の執行部の考え方や思いを伺った。皆にも聞いてもらうべき話もあると思ったので、あいさつを兼ねて要望ということでもよろしく願う。
協議事項(1)	田中委員長	ただいま議長から正副委員長で最終決定というのではなくて、執行部とも打合せをしてとの要望があった。いずれにしても執行部とはしっかり打合せをして臨むことにしたいと思う。 本日は6月定例会での試行を皆さんと一緒に検証し、今後の方向性について議論をしていく。その議論を踏まえて後で執行部と打合せをしたいと思う。協議事項(1)議案審議の流れについての検証だが、6月議会の検証をして9月議会にむけてということになるが、いつものごとく9月議会に向けての常任委員、全協の日程の枠は併せて確保している状態だ。皆さんと意見を交わす前に私から改めて審議の流れを変更した理由について、抜き書きをしてきたので、かいつまんで説明させていただく。議案上程までに質疑をすることが、事前

		審査にあたって不適切だという指摘がある。この指摘を回避するということ、議会議員としてはその議案の内容をしっかりとつかむことが大事だし、その役をこれまで果たしてきたわけだ。この二つを活かすにはどうするかということで、私から提案して全員で確認して試行してきたところだ。議運の開会までに執行部は議案の内容を説明し、説明が不十分だと思えば議員から追加の説明を求める。ただし、質疑はしない。執行部との打ち合わせの際に、6月の定例会は常任委員会、全協の流れではなく、全協一本でという提案があったが、日程も決まっていることもあり試行的に常任委員会をして全協をするという流れで説明してきた。議案について意見を述べる機会がないのでじっくりしないという皆さんの思いがあるようだが、執行部側が成案を得る段階で町民、関係者の意見を聞くのと同じように議会の意見を聞く場面を入れていたわけだ。6月議会前の常任委員会や全協の案件の中にも、上程する議案以外の案件もあった。例えば公共交通の案件だ。これについては議会側の意見も述べるので、常任委員会では協議事項ということになる。次の本会議で上程する案件と公共交通のような協議事項の案件と、性格を異にする案件を区別しておく必要がある。執行部もこの問題をはっきりと区別してなかったと感じている。常任委員会の役割、存在意義をきちんととらえておくべきだという意見もあった。私としては常任委員会の活動についての問題をきょう提起することはできないが、今後引き続き閉会中の所管事務調査の問題について、先進の議会の取組もしっかり研究して、引き続き研究、検討課題としていきたいと思う。改めて審議の流れを6月の試行のようにした経過なり理由について話をさせていただいた。再確認のうえ、この度試行したことについて皆さんと意見交換をしたいと思う。どなたからでも。
	杉村委員	5月28日の臨時会、6月定例会中の委員会審査がなくて、議員の論議が低調なまま本会議を迎えて議決するに至った。事前だろうが事後だろうが委員会審査をしなかったということは、議論すべき議会としては自殺行為的なことだったと思う。現段階のやり方は撤回すべきだ。繰り返すが、事前だろうが事後だろうが委員会審査を充実させてから本会議に向かうべきだと思う。定例会に関しては事前審査にならないように定例会中の委員会を充実させて、必要であれば複数回、複数日持つとか、その後に必要であれば会期中に全協を開くとか。そのようにして委員会審査を中心にして定例会の論議を活発化にすべきである。臨時会の案件に関しては、急を要するので事前審査はいたしかたない。臨時会の開催前に委員会等で審査をしっかり行い、事前になるかもしれないが、全ての資料も公開したうえで審査をして臨時会を迎えた

		い。そのように今回の議会を通じて思った。以上だ。
	田中委員長	その他どうか。
	橋本委員	杉村委員の考えにかなり近い。執行部と一緒にいいものをつくるという今までのやり方はよかったと思っているが、今回試行してみて、意見が言えないとか質問だけとか議論が深まっていないような消化不良の感じが強い。6月の定例会以前に戻すべきだと個人的には考えている。
	田中委員長	他にどうか。遠慮せずに。
	吉田委員	6月議会で議案を上程してから委員会を開催したが、それでよかったのではないかと思う。事前の審査にあたるという形態をどうもっていくか考えなくてはならないが。
	田中委員長	ちょっと意味がよく分からない。
	吉田委員	今回、常任委員会を開いて全協を開いて・・・。
	田中委員長	常任委員会は議案についてはやっていない。
	吉田委員	そうなのか。
	田中委員長	常任委員会で議案を付託するのは3月議会だけだ。議案は付託しないとできないので。
	吉田委員	定例会を開催してから委員会にまわす形態をとればいいと思うが。
	田中委員長	他にどうか。杉村委員から発言があったが、論議を活発にするとはいくということなのかも踏まえて。私としては論議を活発にするためにしっかり情報を得て、議案の中身をしっかりとつかむ。それがないと活発な議論はできないので、あのような提案をしている。
	吉田委員	なかなか議場から言いづらい。聞きづらいし。
		※川口委員入室 10時18分
	田中委員長	聞くのはいくらでも説明の時に聞けばいい。自分なりの認識や勉強がないとなかなか追加の説明を求めることはできない。
	柳委員（副議長）	結論的には従前の対応にすべきだと感じた。私見的な意見でお許しいただきたいが、まず事前審議という言葉が足枷になっていると思うが、当初から法令的な違反ではないと思っているし、議員活動の主体は専門的な議論ができる場である常任委員会の活性化、充実だと思うし、今後もそうあるべきだと思っている。今、試行的に行われた常任委員会だが、説明を聞いてその場でしっかり疑義を唱えるのがセットだと思う。住民に対しての事前審議という文言の説明という部分をよく言われるが、従前の対応が間違っている、直せと批判される住民の方は私の周りには一人もいない。各常任委員会でしっかり議案をねった中で成案を作ることが、住民にとっても望ましいと今でも思っている。上程してから常任委員会と

		ということもあるが、やはり執行部は議案を上程するにあたり自信を持ってあげてくる。修正に応じることはない。議会の権限で修正なり否決になることはでてくるが。そもその形として成案になるまでにしっかりと説明を聞き、議会の意見をしっかりと質しながら成案に導くという今までの方程式が一番住民にとって最善の取組だと思っている。今の流れでいくと消化不良を起こすと思う。近い将来、議論の要である活発的な意見を交わす常任委員会の放映を早期に実現すべきことを付け加えさせていただく。
	田中委員長	消化不良というのはどういうことか。
	柳委員（副議長）	今回、試行的だが常任委員会の開催にあたっても、聞くだけと言う形だった。やはり専門分野でしっかり議論して、本会議に進めていく流れの中で担当常任委員が本会議で議案に対して質疑するのはいかがなものかと思うので、担当常任委員は担当の委員会でしっかりと質疑も意見も含めてとことん議論をすべきだ。常任委員会で自分の使命を果たしたと思っている議員は少ないのではないかと考えているので先ほどの言葉を使わせていただいた。
	橋本委員	私も消化不良という言葉を使ったが、今までしっかりと委員会を通じて自分の意見を発信していた。今回の常任委員会も質問だけ、上程される案に対して可か否かの判断をするための作業であって、よりよいものを作っていこうという作業が難しかった。本会議でいいものを作り上げるのもおかしな話だし、事前に今後活かせる意見を発表する機会がない6月議会は私にとっては消化不良だったということだ。従前はしっかり意見を言ったり、自分の経験なりが今後反映されるような発言も多少できたように思う。その辺が今回は全くなかったと思っている。以上だ。
	森田委員	委員会の審査の充実が大切だと思う。委員会の議員同士でも議論を交わすことがあるし、委員会の審査の充実という点では、従前のやり方のほうが積み上げたものが議案になっていると実感できる。委員長が記されていた常任委員会の議案審議と調査ということで、閉会中の所管事務調査を開いていくべきだし、充実させていくことが大事だと感じた。
	田中委員長	他にはどうか。
	寺垣副委員長	この委員会の副委員長でありながら、この議論になってからずっと従前の方法がいいという発言をしていた。今回6月定例会前の常任委員会で初めて試行的に行ったが、一番大変だったのは委員長ではないかなと思った。何もまとまらないし、委員会としての意見とかが全くない常任委員会だったのではないかと考えている。委員長のやってきたこと、これからやるべきことを考えると従前のやり方がいいと今でも思っている。以上だ。

	宮本委員	常任委員会で揉むということが大切だと改めて感じた。説明を受けるだけなら全員が一堂に介して説明を受ければいい。委員会で十分に揉むということであれば、従前のやり方がよかったとつくづく感じた。以上だ。
	川口委員	説明を聞くだけということで、何が質疑になるのかという仕分けがなかなかだった。各委員が考えながら資料に基づいての説明を求めたと思う。執行部に対してだが、委員会で説明を受けて、また追加の説明を求めたりしている。全協でも委員会で追加説明を求めたようなことも言っていたかないと、全協の中でもう一方の委員から同じような追加説明を求められることがあったと思うので、執行部も委員会で報告した説明だけではなくて、追加説明についても足して説明していただきたいと思う。
	田中委員長	執行部とはそう打合せをしていたつもりだが、課長の説明の受け止めが違っていたかもしれない。事前の打合せでは追加説明したものについては、「委員会から質疑があった。」とかの説明ではなくて、説明そのものとして行うとしていた。そこが十分ではなかったかもしれない。事前審査ではないという意見があるが、私ははっきり事前審査だと昔から思っている。前の議員はそう認識していると思うが、皆はどうか。私は事前審査だと思っているので、その批判を回避したいと思っている。それは前の話で今は時代が違うというものでもない。いまだにそれが引用されているわけだから。
	橋本委員	今回、事前審査もなかったが、審査自体がなかったように感じた。
	田中委員長	審査は6月の本会議だ。
	橋本委員	可か否か判断するしかないなので、それだと深まらないという思いが強い。
	田中委員	深まらないということが分からない。
	橋本委員	私としては執行部と一緒に予算とか体制をつくり上げていく思いがある。つくり上げていく過程が全くなくて、出されたものに可か否かをつけなさいという定例会だったように思う。
	田中委員長	可否の判断の前に質疑がある。提案説明があって質疑があって討論がある。
	橋本委員	それは可か否ではないか。
	田中委員長	私が言いたいのは、全体が可か否かのための作業だ。議案審議は提案説明があって質疑があって問題なければ質疑なしで討論なしで採決する。割合でいうとそのような場合が多い。
	橋本委員	いままでの委員会ならそこで意見を言う場があって、今回の議案には含まれないかもしれないが、将来に向かって反映

		されていくというように思っていたが、それが無いということは出されたものを審査していただく、それが流れていくだけという・・・。
	田中委員長	それも審査の中に含まれている。
	橋本委員	定例会の中で自分の意見を質疑の場で言ってもいい・・・。
	田中委員長	意見だけはいけない。
	足立議長	会議だから会議にしよう。
	田中委員長	意見だけいうのはいけない。質疑という形で、そこは技術の問題もあるが。
	升井委員	いきなり本会議ではなく、従前どおり委員会で意見交換して質疑を十分にした方が、執行部にとってももう一段深くなるのではないと思う。議員も説明を受けるだけでなく、議員同士の質問を聞いて、勉強にもなるし刺激も受ける。執行部、議員双方にとって従前どおりの方がいいと思う。
	足立議長	皆が色々な意見を言ったことが一番大切だと思う。その中で従前のやり方、新しいやり方どのような結論が出てもそれはそれでいいと思う。岩美町議会は上程される議案がほとんど可決だと、否決されることはなかなかないなとよく言われた。それはやはりそれまでの過程が見えてないのも原因の一つだと分かる。自分たちがやっていくことについて立ち止まって議論することが重要だと思っている。皆の意見の中で委員会重視について多々あったが、各常任委員会でどれだけ意見を出して議決に至ったかということも改めて認識してほしい。この件については結論が大多数見えている。ただ、結論を出す前に町長、副町長が6月定例会をどう思っているか確認をしたうえで決めてほしい。
	田中委員長	その様に受け止めている。
	杉村議員	次の9月議会には、試行として先ほど私が申し上げたような定例会中の委員会審査でしっかりと論議するということを、臨時会があるならば臨時前にすることがあるかもしれないが、9月議会での運用を試行でやってみるのはどうかと提案する。
	田中委員長	私の提案がすべて否定されたが、審議の活発化を皆さんがどう考えておられるかと思っていて。次の（２）で提案しようと思っているが、議案を実質審議する場面は放送したほうがよい。従前のやり方をするのであれば、これはどんな意味だということも含めてすべて公開すればいいと思っている。 それは勉強の段階も含めて公開することにもなってしまう。議会の審議ってそういうものかと思っている。実質審議ができるようにしっかり常任委員会や全員協議会で説明受ける。それだけでなく個々にも担当課にも聞くとかそういうことをやってしっかり内容をつかんでそれで判断する。

		質疑で言わないことがあるかもしれないし、説明がないこともある。説明責任があるから、執行部で説明してほしいけど、説明しないことだってあるし。そこを質疑の段階で質してちゃんと説明させる。あるいは、説明できないのなら、説明しない姿を町民にはっきり示すと。これが私の思う質疑だ。勉強の段階はあえて公開する必要はない。審議の活性化、活発化というのについて皆がどう思っているのか。追加説明を求めるのでも、やっぱり我々議員の質が問われると思う。説明を受けても追加説明を求められない。もちろんそういう案件もあるが。 そういうことも思っていて、試行したような流れの提案をした。森田議員の発言にあった閉会中の所管事務調査。説明書をさらっと読むだけでは、なかなかイメージが浮かばない。実際に調査活動を活用して、色々な活動をしている議会があると思うのでそういうところをよく調べて、それで常任委員会の活動の活発化を図るための提案も今後したいと思っている。副議長が言ったように、専門としての常任委員会の役割を果たせるような活動にどう前進させるかという問題意識をもっているが、そういうことと提起される議案の審議というものはちょっと違う。執行部の提案権もあるし、議員にも提案権がある。共にきっちり責任を持って提案権の行使に臨んでもらわないといけない。事前に議員に意見を聞いて直せばいいという思いが、実は執行部にはある。それでは困る。自信をもって成案を作っていくことを本当はやってもらわないといけない。その辺で、議会と執行部の両輪の役割が果たせるのではと思っている。これは私の思いだ。9月は従前の流れでいこうか。皆はどうか。
	皆	賛成。
	足立議長	杉村議員の提案は、それに近いがその前段の常任委員ではなく、会期中の常任委員会で充実したものが開けるようにしてもらえないかということだ。
	田中委員長	試行したことは更にして、常任委員会で案件を揉みたいと皆さんが言っている。3月は付託するからいいが、他の定例会は付託しない。担当常任委員会に議案を付託することにしないと、正式な常任委員会にならないので、それをするかどうか。3月だけでなく、6月、9月、12月も議案は担当常任委員会へ付託するということになると、常任委員会では分けられないというものもあるので、予算は予算特別委員会を設置してするか。通年で行うなら、予算特別委員会を通年設置しておくということが考えられる。 付託方式でいくか。規則も変えなければならないが。
	足立議長	総務の人はそれでよいか。
	田中委員長	常任委員会で議論したいという意見が大方なので、付託方

		式にすれば、上程後になり事前審査はクリアする。
	柳副議長	流れはいいけど、従前、議会前に開催されていた常任委員会の説明を聞くだけということもなしにして、会期を延ばすという構想になるわけですがね。開会後に、集中した議論をすることになると前段の委員会もなくなるということも踏まえて、日程も変わってきますが。
	田中委員長	いくらでも変えればいい。
	柳副議長	常任委員会も全員協議会もなくなることも踏まえて、会期が増えざるをえんと思うが。どのようになるか心配する。
	田中委員長	それは、心配する必要はない。前にやっていた日程を会期中に増やすだけだ。
	宮本議員	他の町村をみると1週間、2週間としている。岩美町は、3日であったが、よそはどうしているか。
	田中委員長	これに書いてある。※配布資料 局長にかなり細かい項目で突っ込んだ調査をしてもらった。前局長にもしてもらったことがあるが、分からないことがいっぱいあったので改めて行った。 上程前に審議しているのは、うちを入れて7つ。委員会付託しているのは3議会。
	柳副議長	確認だが6月議会で試行した審議の流れと今9月で採用しようかという杉村委員のご意見とほとんど大多数の議員が従前と言ったと思うし、あと、澤議員の意見を伺ってないが、3つを改めて試行してみるということか。例えば12月はまた切替えて。
	田中委員長	12月のことまで言っていない。
	柳副委員長	委員長の案、杉村議員の方法、元に戻す方法の3つがあったと思うが。
	田中委員長	9月にこれ、12月にこれを試行するとは言っていない。常任委員会での審議を充実させるのがいいと思うので、3月のように6月9月12月も含めて議案を担当常任委員会に付託するのはどうかと。
	杉村議員	それは、あくまで恒久的なやり方にするのではなく、9月だけという位置づけという提案だ。
	田中委員長	付託すると会議規則を変えなければならない
	橋本委員長	私は執行部と一緒にいいものを作りたいという、それが議会の本来の姿かどうか分からないが、それを考えると森田議員が言われるように、所管事務調査として上程される前にしっかり委員会を開いて、我々の意見をしっかり述べるとか、聞くという場があってもいいかなと思う。そのうえで今回の6月のように、あとはそこに出たものを審査するというやりかたもあるのではないかな。そこで執行部にしっかり意見や考えや質問ができるかと。私の意見だ。

	田中委員長	私もそれができるかなと調べたが、今調べた範囲では難しい。
	橋本議員	智頭や若桜が毎月しているようだが。
	田中委員長	閉会中の所管事務調査に該当するかどうかということになり、そもそも常任委員会の調査というものが、議会側が条例とかを作るための調査になっているので、私がさらさらっと勉強したところでは、従前のようにやってきた常任委員会を閉会中に所管事務調査としてするのは難しいかと。
休憩 再開	田中委員長	休憩する。 11時05分 休憩 再開する。 11時13分 再開
	田中委員長	9月議会に向けて、試行ということで上程後、規則を変えないために協議事項でいくか。 予算については、少なくとも一般会計予算は分けるわけにはいかないの、特別委員会を作らないといけないな・・・。
	杉村議員	試行なので、従来通りでいいのではないかな。
	田中委員長	予算は常任委員会で行う・・・ということで予算案は所管のところで、特別会計も所管のところで事前にする。あるいは事前もして上程後もするのか。
	川口議員	上程後というのは、定例会中に常任委員会に付託することか
	田中委員長	付託しなくても、協議する。本会議前でも。上程して委員会でも協議して、それから本会議で提案説明して、質疑、討論、採択する。本会議の質疑前に常任委員会を開催する。
	杉村議員	委員長は付託と言ってられるけど、付託となると委員長が本会議で報告する訳ですけど、別に付託しないで会期中の常任委員会ですっかりと論議をしていただいて、それを踏まえて本会議を迎えるということで、単に定例会開催前の常任委員会を定例会中に開催するということを試行してみればいいということだ。
	田中委員長	付託すると規則を改定しなければならないので、9月はそのように試行してみよう。 副議長はどうか。疑義があるか。
	柳副議長	あとでチェックをする場を設けていただければこれ以上は。
	澤議員	私は終始一貫考えは変わらない。皆が元のままでいいということなら元に戻せばいい。あくまで住民のためにする。体裁をつくらって流れをかえるというのはどうか。住民のために何がいいかを考えるべきだ。だから終始一貫何回も議論して揉むというのがいいと言っている。

	田中委員長	主観的な思いはいい。我々は常に町民の監視の対象だというのを忘れないでほしい。公開も本会議で質疑するのも監視してもらうためだ。十分練って町民のためにいいものをつくっているからいいというわけにはいかない。それだけでは終わらない。
	澤委員	それを聞いても変わらない。
	田中委員長	変えてほしいとかではない。我々がやっている仕事はそういうものだ。主観的意図がよければいいではない。
	柳委員（副議長）	澤議員と私は考えが一致するが、先行して改めて試行しようという意見は尊重する。試行した結果をまた検証するということで。最後に委員長が町民に監視をもらうということを言われたので、常任委員会の審議の過程を放映することは、以前から議会としてもすべき課題として取り組んでいた経過があり、ほとんどの委員が理解していると思う。
協議事項(2) その他	田中委員長	この件はこれで。その他の中身については私が提出した資料の2の議案審議の公開についてだ。参考資料として県内各町村の議案審議の流れの調査結果を皆に配布している。これではぼイメージが掴めると思うが、概略を局長より説明してもらう。
	濱野議会事務局長	* 資料（上程議案の審議の流れ）より説明
	田中委員長	重複するが、私の気がついたことをまとめて資料に記している。本会議の質疑が多い7議会のうち、6議会が本会議の議案質疑を放送している。生か録画、あるいは両方するところもある。北栄、日吉津、大山は事前に質疑もしているが、本会議の質疑も多い。本会議が初めての質疑というところが、琴浦、日南、日野、江府で江府だけは質疑が少ない。ここは皆放送している。前段の議論で副議長からもあったが、常任委員会、本会議での議案の審議の場面を岩美町チャンネルやYouTubeで放送する、それから議会の審議のために提出される資料を議会のホームページで公開することを執行部と打合せしたいと思うがどうか。この6月試行前の打合せの時に議会に関心を持ってもらうために公開、放送したらどうかと副町長より提案があった。執行部との調整のうえだが、その方向で協議したいと思うがどうか。
	杉村委員	今期の会議の中で「各議員の意見が活発に出るのは、陳情案件等に対しての討論が各種あり、これはよいことだと思っていたところからそれについて放送してはどうか。」と申し上げた。今委員長が言われた質疑の部分について放送するのはよいことだが、以前申した陳情案件については町民から見ると面白い部分もあるので、それも含めて・・・。
	田中委員長	本会議の審議も含めてという意味だ。
	杉村委員	了解した。放送した方がいと思う。

	田中委員長	技術的には9月の本会議から。それと議会に提出された資料をホームページにアップするのは、議会事務局が行なう。執行部にも色々な資料をそのつもりで準備してもらうことも含めて、打合せしていきたいと思う。どうか。
	橋本委員	放送はすべきだと思うが、議会放送中はかなり岩美町チャンネルを占拠するので、それを町民が望んでいるのかどこまで考えているのかアンケートなりをとってもいいのかなと思う。
	田中委員長	そのことは、あまり気にしないでいいのではないかな。年に決まった日だけだし。
	柳委員（副議長）	要望があれば生放送でもいいが、ダイジェスト版を望むと思う。主要な部分をダイジェストで試行するのがいいと思う。その方が町民には分かり易い。
	田中委員長	ダイジェストの方が難しい。それをつくる人が必要だ。実際にやっている所に聞いてみよう。日南町は議運以外を生放送と録画放送している。日野は本会議をすべて生放送でしている。この辺りに聞いてみる。 具体的に出た話を執行部と打合せしたいと思う。それから冒頭の議長から提案を踏まえて打合せをしたい。常任委員会と全協の枠はとっているがそれも含めて打合せする。
	濱野議会事務局長	調整している日程を報告する。常任委員会は総務教育を8月25日(水)、産業福祉を8月26日(木)に。8月27日(金)は予備日として確保している。8月31日(火)が全協、9月7日(火)が議運だ。9月14日(火)から28日(火)までを9月定例会として予定している。現段階では執行部とこのような日程としている。
	田中委員長	何か委員からあれば。まちづくりの会の山本会長から「議会活動の在り方検討特別委員会がかかげた課題」への提言についてという文書が議会に提出された。これに対するまとまった返答はしていないが、資料として皆が目を通しておいてほしい。
	杉村委員	まちづくりの会の資料の最後に「議員報酬は議会改革の実績を窺って判断すべきと捉える」と明記してある。私は報酬の委員会の時からずっと同じような発言をしている。町民に議会改革の実績を示していくのだ、私は報酬を上げるべきだという持論を持っているが、そのうえで議員報酬について色々な協議を行うべきだという意見だが、皆とはなかなか意見が合わない。このようなまちづくりの会のこともご理解いただけたらと思う。
	田中委員長	敢えて議会改革という言葉を使ってないが、それに取り組んでいることは間違いない。終結をどこにするのかどこまで行ったら町民の意に沿える状態なのか、その判断はさまざま

		だ。改革という観点から色々語っておられる。我々のこれからの議論にも反映できることがあると思うので、読んでいただきたいと思う。以上だ。
閉会	田中委員長	以上で、特別委員会を閉会する。 *起立、礼 11時48分 閉会

上記のとおり会議の次第を記録し
これを証するため、ここに署名する

議会活動の在り方検討特別委員会

委員長 田中克美